

(2) 地域学習部会



“地域学習”と聞いて何をイメージされますか？

皆さんが住んでいる地域について学ぶ、地域を知ること…などをイメージされると思います。

この部会では、ご高齢の方・障がいのある方・子どもを持つ保護者の方が普段どんなことに困っているのかを住民一人ひとりが知っているだけでも、こうした方々の不安や心配はずいぶん軽減されるのではないか？と考え、地域社会の中で暮らす全ての人々の**ふだんのくらしがしあわせ**である為にはどうすればよいのか。

市民の皆さんに「福祉とは身近なことだ」と理解していただくにはどうすべきかを話し合いました。

部会の参加者は、ボランティア、市民活動団体の方、ご家族の介護をされている方、元教師の方、福祉施設、教育委員会、保健センター職員の方などで、現状の福祉課題をそれぞれの立場で挙げていただきました。

「高齢の母を在宅介護している。介護サービスだけでなく、地域での支えがほしい」

「子供同士の関わりが希薄。言葉も乱れがち…」

「市報だけでは福祉情報が不足」

「障がいがあり、金銭管理ができない人はどうしたらいいのか」

「郵便物の意味がわからず、定額給付金の申請ができない人もいる」…

など多岐にわたる課題が出る中で、「地域で起きている問題に住民があまり気づいていないのでは？」という意見が多くあり、福祉課題について気づき・知って・学ぶ（考える）ためには地域の“つながり”が大切であることが明らかになりました。



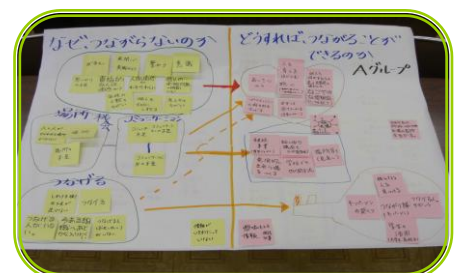
時代の流れとともに地域のつながりが希薄になり、隣近所で助け合ったりしにくい雰囲気があります。

“つながり”をキーワードに話し合いを深めていくことにしました。

まずは「つながるためにはどうすべきか」をワークショップ形式で話し合いました。

「ご近所付き合いを再評価する」「ほしいときに必要な情報が得られるしくみが必要」

「他人事だと思わず”お互い様”と助け合う気風づくりが必要」「多世代をつなぐ人（コーディネーター）が必要」という意見が挙げられました。





次に、つながるための具体的なしくみを「子ども世代」「親世代」「高齢者世代」と3つの世代に分けて検討しました。

「育児の悩み」「地域の歴史や現状・ルールを伝えよう」といったことを”おしゃべりサロン”のような気軽な場で話し合える仕掛けはどうか。

以前は学校の他に“コミュニティ”という学びの場があった。

現在は、地域ふれあい施設を拠点に多世代の交流が行われ始めている為、今後は、地域住民が中心となって社会資源を上手に活かし更に交流が深まる取り組みを仕掛けては。などの意見が挙げられました。

話し合いを深める中、地域の中で人と人が密につながり、地域の課題から個人の困りごとに至るまでの情報や思いを共有し解決に導く為には取り持つ“人”の存在が必要であり、併せて地域学習の推進にも重要不可欠なのは“人”であることが明らかになりました。

地域学習部会として、現在ボランティア、市民活動で活躍している人や地域で役目を担っている人がより一層つながりを深めると同時に新たな“人財”を見出すこと、お互いを理解しあう仕組みづくりを推進することを目標としました。

半田市民の、**ふだんのくらしがしあわせ**であるために・・・



出会うしくみ
出会いお互いの理解を深める

知る・気づくしくみ
地域を知り、住民の顔がわかることで
気づき、想いあえるきっかけをつくる

学びあうしくみ
大人も子どもも学びあう場を作ること
年齢に応じた学びをする（福祉教育）

つながりを持つしくみ
地域の人が笑顔で挨拶が出来、自然に
つながるしくみ。
出会いや学びのきっかけ作りや、人を取り持つコーディネーターを発掘する